



みんなで家庭教育！

7月8日に家庭教育学級リーダー研修会「ちょっと教えて！尾木ママの子育て相談会」を開催しました。市のいじめ防止専門委員会の特別顧問に就任し8年目となる尾木直樹先生をお招きし、約200人の家庭教育学級リーダーらと子育てについて学びました。

昨年度と同様に、今年度も家庭教育学級のリーダーが子育ての悩みを尾木ママに直接聞き、答えていただくQ&Aで行いました。個人的な悩みやプライベートなことでも大勢の前で語るリーダーさんたちの姿、それをあたたかく見守りながら、自分事として傾聴する参加者のみなさんの姿を、尾木ママは「可児市のお母さんたちはすごい！お互いの信頼感がないと、このような相談会はできませんよ！」と絶賛してくださいました。

尾木ママが優しい口調で語ってくれたことは、我が子への接し方やこれからの子育てで納得・共感することばかりでした。また明日からの子育てを笑顔でやっていこうと思える会になりました。

ちょっと教えて！尾木ママの子育て相談会 Q&A (ダイジェスト版)

Q1 7才の長男と5才の次男は、私が「〇〇やりなさい」(例：宿題、お風呂、歯磨き)と言っても1回で動こうとせず、本当にギリギリになってから動き出します。最近は、1回言っても聞かないので「もうママは知らないからね」と放っておくと「なんで言ってくれないの、ママのせい」と逆ギレされます。効率よくやってほしいので、それに毎日イライラしてしまいます。私をもっと余裕をもてるといいのかなとは思いますが、そんなうちの子にどう接すればいいのでしょうか。

- A 子どもは、今を生きているの。未来は見えないんです。7才5才ではまだまだそんなもの。時間の感覚が身につくのは、小学校2年生の後半くらいと言われてるの。大人も、長い時間生きてきたから時間を考えた行動や見方ができるんですよ。
- ・お母さんの言い方やリードの仕方を振り返ってみたらどうかしら。あんまりガミガミ言わずに、もっと優しく「1回言うから自分で考えて動けるかな」、「今日は自分でやってみようか」などと言い方を練習してみて。そして、子どもがどんなふうに動くのか客観視して、様子を見てくださいね。女の子の方が出来る場合が多いですけど、それも男の子の特徴だと思ってるいろいろ試してみてください。
 - ・お母さんの気持ちも痛いほどわかります。だって忙しいもの。でも、先を見通して動くことは大人でもなかなかできませんよ。そういう力をつけることも子育てでは大事なんですけど、今のことに真剣に夢中になっている子は伸びます。集中力、観察力とも言いますが、そういう力をうんと伸ばしてあげて。

教えて
尾木ママ



Q2 9才と7才の発達障がいの姉妹を育てています。本人や周囲の子に「障がいの？」と聞かれたときに、障がいというよりは、それぞれみんな違うんだよ、多様性があるんだよというニュアンスで説明したいと思っていますが、なかなか子どもに合う言い方、腑に落ちるような言い方が思いつきません。どんなふうに伝えたら納得できそうかなと考えているのですが・・・。

- A 子どもが納得できるような言い方なら、例えば女の子であったり、兄弟がいたり、得意不得意とかいろんな特徴があって、あなただってこういう特徴があるでしょ、と。それはみんな違っているんだよと話してはどうでしょう。地球上に同じ人なんて一人もいない、〇〇ちゃんはそれが目立っているんだ、ここが優れているんだよという言い方をしてみてください。
- ・また、子ども本人が友達や同じ年齢の子に自分の個性や特徴を理解してもらうように話すのは難しいと思います。学校では担任の先生に頼ってはどうでしょう。先生に人間の個性や脳の特徴について具体的な例を挙げながらいろんなケースを説明する機会を設けてもらったら。そうすれば、友達から「障がいの？」と聞かれたときに、「この間、先生が説明してくれたよね」と先生の話の土台にしてお話していいのではないのでしょうか。
 - ・日常生活での大人同士の会話なら、脳の個性や脳の性格なんだと伝えてはどうでしょう。短気な人、のんびりした人、いろいろなタイプがいてみんな違っています。普通と言われる枠からはみ出しているというか突き抜けている状況だと、目に付いたり、違和感が出てきたりしますけど、そのときに、みんな脳が違っているんだよとか、あるところが特別に発達しているんだよという言い方もできますね。
 - ・ところで、「発達障がい」は「障がい」という言葉を変えるべきだと思います。一部の先生や研究者は、特別な能力、才能を持っているスペシャルタレントと呼びますよ。その子たちの特性を伸ばす研究や支援を考えている大学や企業もありますし、その特性がもっと伸びるような教育をしたり、特別な体制をとっている国もあります。日本のような均一な教育というのは、あと10数年もすれば変わっていきます。教育も子育てもグローバルに、世界はどうなっているのか。直接的な回答ではないですけど、もっと視野を広く見てほしいですね。

Q3 中学1年の次男が、事あるごとに平気で嘘をつくのが見抜けなくて悩んでいます。自分の子どもだから分かるかと思っていても、本当は見抜けないうらい平気な顔で嘘をつきます。指摘しても悪びれた様子も反省している感じもありません。どういった返しをしたらいいのでしょうか。



- A・日本人は嘘がすごく嫌いなんです。正直なことが大事であって、ミスや間違いをしたら、素直にそれと向き合っただけで乗り越えてほしいというような価値観が社会全体で強いんですね。
- ・嘘には、ざっくり分けると良い嘘と悪い嘘があります。良い嘘というのは、「嘘も方便」というように、例えば人を励ますための嘘は悪い嘘ではないでしょう。悪い嘘は、人をだまして陥れる嘘。振り込め詐欺のように人の善意や良心に付け込んでだましていくのは絶対的に悪い嘘、犯罪ですね。皆さんが心配するのは嘘をついて悪いことをしてほしくないということ。嘘は泥棒の始まりと言われるのもそういう意味ですよね。
 - ・教育の専門家から見ると、嘘をつけるようになったということは、ある意味で子どもが発達して、成長している姿だということ。3歳のお孫ちゃんの話ですけど、口の周りにチョコレートが付いているのに「まだ食べてない」というバレバレの嘘をつく。これは事実か事実でないかの自覚もあまいまな幼稚なものだけれど、中学1年生くらいになると嘘も高度になります。相手や状況を判断して、事実のように話す能力もついてきます。そういう側面では、うちの子は平気で私をここまでだませるようになったのかと一瞬思ってもいいわけ、一瞬ね。
 - ・そもそも、子どもが嘘をつくときには絶対に理由があります。どういう言葉で返したら良いかよりも、それを受け止めてあげてほしい。「どうしたの？」と理由を聞いてあげて。その言い方も怒るのではなく、気持ちに寄り添って、共感するように聞いてみると何か話してくれるはず。それを聞いて、嘘を言った背景や気持ちをつかめたら、「そういう時にはこうやってね」と具体的にアドバイスして、解決の方向に導いてみてください。そうしていくと、嘘を言わなくても自分の要求が満たされるような表現のしかたができるようになっていくと思います。

Q4 6年生の男の子がいます。私は仕事柄帰宅するのが遅く、家事にも追われてなかなかゆっくり子どもと話ができせん。心にもゆとりがないせいで、言うことを聞いてくれなかつたりすると、つい声を荒げてしまうこともあります。本当はたくさん愛情を与えてあげたいと思っていますが、なかなかできず、近頃は子どもも反抗的な態度を取るようになってきてしまい、ぶつかり合うことが多くなりました。どうしたらいいか悩んでいます。

- A・忙しいご家庭できちっと向き合う時間をわざわざ作るのには難しいので、お母さんが自分の今やっている家事や料理などの時間に、5分でも10分でも、本当に時間がなければ2分でもいいから子どもと向き合う時間を組み込んでみてください。それから、お皿を片付けるとか簡単なことでもいいから、一緒に何かをするということが大事です。共同作業で連帯感がうまれるんですよ。大人でもそうですよね。はじめは嫌だと思っていたPTAの仕事も仲間と一緒にやっているうちに結構楽しくなったりしませんか。やっぱり、家族の中で個々バラバラに生きているみたいな形は避けたほうが良いと思うの。
- ・子どもと共同で何かをする、そのときには必ずお礼を言う、褒めるということがすごく大事。子どものやり方が気になっても、「ありがとう。すごく助かるわ。さすが○○ちゃんだね!」って、人格そのものをオーバーに褒めるのがポイント。往々にして僕らが褒めるときには、部分的なわけ。「お皿10枚も洗ってくれたのね、助かるわ」とか。でも怒るときには人格を全否定してしまいがちなんですよ。これ、褒めると叱るの場面の展開の仕方がまるっきり逆なんです。とにかく簡単なことを一緒にやる。そしてオーバーに褒める。繰り返しやっていると、うちに少しずつ今日は何かしたよとか、いるんやということを報告し合ったり、次は○○しようとかか盛り上がりたりしていくことが必要。
 - ・反抗期は、自立しよう、親から離れようとしている時期。その時期に正面から子どもと向き合いたい、愛情をあげたいというのは間違いじゃないと思いますが、すごくやりにくいと思います。時間がいっぱいある家庭でもうまいかなくなるのが小学6年生頃から。ある意味で、子どもがたくましく自立しはじめていて、親に頼らない力もついてきている側面もあると思います。お母さんが一生懸命働いて忙しくしている後ろ姿も、前向きな姿も見せるのが大事。子どもはしっかり見てますから。子どもを信じてください、大丈夫ですよ。

Q5 中学2年生の男の子で、今、スマホ中毒のような症状です。ゲームをしたり、ユーチューブを見たりしています。家族で相談してルールを決めても言い訳をして守れません。スマホは連絡用として渡したのですが、自分の良いように使うようになってしまい、今、スマホを取り上げると非常に怒ります。怒ると気性が荒くなったり、手を出したりするので、どう対応していいか悩んでいます。

- A・これは、現代の最先端の悩みじゃないかと思えますね。インターネットやゲームは特に依存性が高いんです。日本でスマホを含めたネット依存にかかっている子どもは、政府の発表では中高生で93万人もいるんです。5年前の倍近くに増えていて国も問題視しています。親や祖父母が簡単にスマホを与えてしまうのも日本の特徴なんです。
- ・国際的にもネット依存の子どもが増えてきて、今年5月にWHO(世界保健機構)がオンラインゲームも含めゲーム依存(ゲーム障害)は病気であると認定しました。つまり、病院に行ったら保険で診療して治療しなければならぬんです。日本でもこれからは依存症の診療や治療に真剣に取り組んでいかなければならない時代が来ます。
 - ・ゲーム依存の特徴は、まず学力がスドンと落ちます。韓国ではオンラインゲームを数日間やり続け、エコノミクス症候群で死亡した事例も複数あります。中国では強制入院させられる事例もあります。そして、脳に悪影響を及ぼし、感情コントロールができなくなり、ときには暴力を振るうのも依存症の特徴です。
 - ・それから最近では大学の授業でノートを取る代わりにスマホで画像を撮る学生も多いのですが、授業中にノートを手書きで取る場合と、デジタル端末を使ってメモをとる場合では、どっちが学力が高かったかという、手で書く方です。経験的には教員たちは分かっていたんですけど、最近の調査で脳科学的にもはっきりしてきたんです。
 - ・子どもにスマホを渡すときには、親子で契約スタイルでルールをきちんと決めることが大事。特に、誰の所有物で、誰が使用料を払っているかを明記するべき。中学生なら所有者は大体親ですよ。ルールを破った時には、何日間没収するなどのペナルティも具体的に決めておくといいですね。
 - ・逆に一切ルールを決めずに渡して、何か差支えが出てきたらそのときにルール化するという方法もあります。これも結構有効で、生活や勉強、友人関係に支障が出たときにはいくらでもルールは増えていきます。やっぱりルールを持たないとダメ。スタートできちんとルールをどうするか決めていけば結構何とか行くんですけど、途中からルール化していくのは非常に難しいですよ。
 - ・ネット環境があるなら、ぜひ子どもと一緒にゲーム依存について調べてみてください。脳が影響を受ける様子などが詳しく見られるので、しっかり学習して、親子で本気で向き合っただけで考えてほしいなと思います。

☆食欲の秋。読書の秋。スポーツの秋ですな...。
可児市役所 子育て支援課 親子まなび支援係 前田 加代子
電話 :62-1111(内線 5545) FAX:66-1005
E-mail:kosodate@city.kani.lg.jp

